

## 「理不尽に勝つ」 著者 平尾誠二 PHP 研究所

今回の書籍と出会うきっかけは、放送されていたテレビ番組を何気なく観ていた時でした。『友情～平尾誠二と中山信弥「最後の一年」』という特別番組で、ラグビー界を代表する選手とノーベ生理学賞を受賞した研究者の間に生まれたキセキの物語です。

ミスター・ラグビーといわれた平尾選手がラグビーと向き合い、病に倒れながらも貫き通したラグビーへの熱量のすごさに驚かされ、今回紹介する本にたどりつきました。

定期的に読書をする方ではありませんでしたが、生徒との向き合い方や指導方法も変化し、多様な引き出しが求められる今日において、変わらなければならないものと変わってはいけないものとの整理する良いきっかけとなりました。そんな矢先の書籍リレー依頼でしたので、もう一度読み返し、感じたことお伝えできればと思っています。

### 【表紙】

- 自分の弱点を強さに変えるとは？
- 理不尽を経験することで人は鍛えられ、成長する。
- 生きる力を養うためには何が必要なのか？

### 【目次】

- 第1章 理不尽によって人は鍛えられる
- 第2章 リーダーとして理不尽な状況をいかに乗り越えるか
- 第3章 理不尽をどのように与えるか
- 第4章 理不尽は決してなくなる
- 第5章 ひとりでは無理でもチームであれば乗り越えられる
- 第6章 孤独に耐えてこそ、乗り越えられる
- 第7章 理不尽が人を成長させる

著書の中では「理不尽が人を大きく成長させる」とある。それは、ただ理不尽を与えるわけではなく、理不尽と遭遇した時にどのように考え行動するかを見極めるための方法のひとつであると説明している。考え方に偏りがあり、逃げる人・愚痴をこぼす人・態度に出す人・立ち向かう人・自分に足りないものだとして解釈して取り組む人、この理不尽（困難）は自分の成長につながると感じる人・・・など考え方や行動は様々である。高校野球を終え、社会に出ていく子供たちを待ち受けている世界はまだまだ理不尽なことが多いと感じる。理不尽を経験し乗り越えてきた人間は強い。理不尽なことばかりではいけないが、生徒たちには困難（理不尽）を乗り越える力を身に付け、社会で活躍できる人材であってほしいと願っている。そのために我々ができることはまだまだあると考えさせられた。書かれていることがすべてではありませんが、何かのきっかけとなればと思い紹介させていただきました。